



CONTENTS

1. 明後日朝顔プロジェクトのこれからの展開と課題についての考察
2. 朝顔の<時の方舟>に乗って
3. 中央図書館ラーニング・コモンズ
4. 金大生のための読書案内(No.2)
5. PubMed から本学で利用可能な電子ジャーナルへリンク!
6. 図書館トピックス

あさってあさがお
**明後日朝顔プロジェクトの
これからの展開と課題
についての考察**

アーティスト 日比野 克彦



これまでの経緯

2003年に新潟で行われた「大地の芸術祭・妻有アートトリエンナーレ」に於いて、廃校になった木造二階建ての校舎を利用して、地元の住民と学生スタッフが共同して行える活動として、朝顔を校舎の屋根まで伸ばそうという活動が始まる。芸術祭の会期が終了した後も、朝顔の種の収穫を村の年中行事である収穫祭の時に重ねて行うなど、一年を通して集落との交流が続く。種が収穫できたのをきっかけに翌年も育てようという考えが自然におこってくる。この時これは終わらないプロジェクトになると覚悟する。

2005年に水戸芸術館にて「日比野克彦の一人

万博」・個展を開催する。芸術館の外壁に新潟の朝顔を持ってくる。新潟の集落の人が苗を持って水戸にやってきて、水戸の人と一緒に苗植えを行う。種が人を連れてくる最初のアクションであった。

2006年には、岐阜（岐阜県立美術館）・福岡（太宰府天満宮）にも朝顔が展開し、人と人、地域と地域を繋ぐ。

2007年に金沢21世紀美術館にて「日比野克彦アートプロジェクト・ホーム→アンド←アウェー方式」というタイトルをつけ、明後日朝顔プロジェクトの活動の機能が明確化される。この年には18の地域で明後日朝顔が展開された。

2009年には金沢大学附属図書館で明後日朝顔プロジェクトが始まった。

明後日朝顔の定義

2003年から始まった朝顔の種が引き継がれていること、つまり種に過去のこれまでの生育地のプロフィールがついている。

明後日朝顔プロジェクトの定義

継続性のある地域で明後日朝顔を育成し、明後日朝顔の理念を伝える姿勢をもっている人々の活動。

□明後日朝顔の理念

種は、まだ見ぬ先へ想いを馳せている。
種は、時を越える事の出来る乗り物である。
種は、見知らぬ土地に行く事が出来る船である。
一粒の種の中には今までの無数の記憶が蓄積されている。
一粒の種の中には次に伝えるたくさんの思い出が詰まっている。
記憶と思い出が今日を過ごして花を咲かせると、明日の種が生まれてくる。
種の船に乗れば明日の明日へと繋がっていく。
そして・・・明後日の姿へと想いは広がる。

明後日朝顔プロジェクトは今年で7年目を迎えた。この7年間の中での私のアートに対する考え方は朝顔と共に随分と広がった、と同時に現代のアートの役割をより明確にすることが出来た年月であった。アートが美術館だけに納まらず、日常生活の中に機能するように、というのは私が80年代に美術の活動を始めた時からの目指すところであった。現代美術でデュシャンが便器を「泉」というタイトルを付けて展覧会に出品した出来事があり、アンディー・ウォーホールがキャンベルスープをモチーフにした作品を発表し、ヨーゼフ・ボイスが緑の党を設立

し社会運動を展開したり、既存の価値観を変化させるところにこそ美の魅力があると考えていた。

しかし私が1983年に段ボールを素材とした作品を発表した時は、決して意図的に世間の価値観の変化を求めたのではない。と同じく明後日朝顔に関しても2003年に始めて朝顔の苗を植えた時も同様である。

日常の中に美術を機能させるという視点と既存の価値観を変化させるというこの2つの視点はいつも自分の中には並行して存在し続けていた。それは実は並行するものではなく、連鎖的に回転する関係にある。美とは価値観が変容する力のことを言う。つまり「既存という日常を見直すことによって価値が変化し、その価値観が日々の生活の中で機能するということ」。

これからの明後日朝顔には、この明後日朝顔の理念の持っている価値観がどう社会に機能していくのかということを思考し、形にしていくことが課題となる。つまり朝顔の育成以外の活動にも明後日朝顔の理念を展開していくということになるであろう。

種は運びやすく、時間を待つことが出来る。だから時間を空間を超えて「広がること」は種にできる。

「伝えること」それが明後日朝顔プロジェクトが行うことである。

日比野 克彦 (アーティスト)

HIBINO KATSUHIKO

1958年岐阜市生まれ。東京芸術大学大学院修了。
大学在学中にダンボール作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、パブリックアート・舞台美術など、多岐にわたる分野で活動中。近年は各地で一般参加者とその地域の特性を生かしたワークショップを多く行っている。



朝顔の〈時の方舟〉に乗って

金沢大学附属図書館長 柴田正良

われわれ金沢大学附属図書館がアーティストの日比野克彦氏の明後日朝顔プロジェクトの理念に賛同し、中央図書館で苗植式を行ったのが2009年の6月初めであった。この朝顔プロジェクトの理念は当時おそらく、図書館職員の間でさまざまに解釈されたに違いない。私はといえば、「種は、時を越える事のできる乗り物である」という表現に、学生のメタファーとしての「朝顔の種」を見出して、爽やかな想像の広がりを楽しませて頂いたという辺りである。種はここで育てられ、遠くの異世界に持ち込まれ、そこで一所懸命に花を咲かせ、異邦人の記憶を込めた種をまた生成する。心は種に乗り、種は〈時の方舟〉に乗る。そのようにして時間を運ばれていく種は、大学が苗床となって育てている学生たちであり、その大学の知の苗床となっているのは図書館である。

おおよそ、そんな勝手なイメージを頭に描きながら暑い夏を迎えたとき、少し当惑する事態が起こった。当初、われわれは、中央図書館の四面すべてに蔓を這わせ、もって緑のカーテンで図書館全体を覆うつもりであった。しかし、朝顔はカーテンとはならず、何本ものテープになってしまったのである。原因は何か？やれ苗植の時期のせいだとか、プランターの大きさのせいだとか、天候不順のせいだとか、いろいろと話は出たが真相は分からない。私が気に入

っている説明は、夏前の一時期、水切れを起こし、命の危機を感じた朝顔がもはや蔓や葉を延ばすのを止めて、せっせと次の種をこしらえることに精を出したから、というものである。われわれは、図書館から垂れ下がった無数の緑のテープに、次世代へと命をつなごうとする花の確かな意志を感じ取るべきなのかもしれない。収穫祭は、11月の終わりに70名を超す参加者を得て行われた。

朝顔は「ジャパニーズ・モーニング・グローリー」という英語名の、しかし中国が原産の植物である。朝顔は清楚な青の花という一般的なイメージを持つが、九州大学の仁田坂英二先生によると、実は、朝顔のゲノムの中を飛び回るトランスポゾンという「動く遺伝子」の活動が極めて活発なので、花の色や葉の形や蔓のよじれなどに突然変異の生じた「変化朝顔」を創りやすいのだそうである。おかげで江戸時代後期には、文化・文政期と嘉永・安政期の二度にわたって、この変わり朝顔が愛好家の間に爆発的なブームを引き起こした。「乱獅子」、「比翼孔雀」、「雪月台」といった、おおよそふつうの朝顔からは想像もつかない名前は、江戸庶民が朝顔に見立てた〈美〉のメタファーであったに違いない。しかし、これらの突然変異体は、命の愚直な継承という種本来の役割からすれば、悲しき逸脱なのだろうか。

そうではない、と思う。〈時の方舟〉から今もこぼれ落ちる朝顔がかいま見せてくれるのは、作り手と種との〈美〉の無言のやり取りである。それもまた、種がもつ命の豊穡さの一つであろう。種は気ままに散開し、大地の襞に深く入り込み、ときには思わぬ冒険もする。ところで、日比野氏によれば、「美とは価値観が変容する力のこと」である。なるほど、そうであったか。では、知識や思考とは何なのだろう？プラトンのアイデアの世界なら美と真と善は究極のところ一致したであろうが、現実世界ではそうはいかない。〈美〉に誘われた者が〈真〉を捉えそこね、〈善〉を踏み外すことはよくある話だ。つ

まりこの世界では、知識や思考は、知の革命を静かに準備し、人々が変革の擾乱に踊っているときに〈美〉の幻惑に耐え、革命の後にその実りをしたたかに収穫する術である。派手ではないかもしれない。靈感とも無縁かもしれない。しかし、大学と大学図書館が提供する知識や思考は、種たちが〈時の方舟〉に乗って旅をするためのもう一つの、そして不可欠の〈糧〉なのである。

なお、われわれ金沢大学附属図書館は今年もまた、この朝顔プロジェクトを継続するつもりである。



朝顔のツルで作った巨大リース！

- 中央上： 挨拶をする柴田図書館長
左下： 参加者に図書館スタッフお手製のお汁粉をサービス！

＜平成21年11月27日 収穫祭＞



中央図書館ラーニング・コモンズ —皆で「学ぶ」図書館を目指して—

附属図書館では中央図書館に、学生の皆さんの学習を支援するための施設整備を計画しています。昨年度に実施したアンケートにおいて、「グループで話し合える場所が欲しい」という要望を多数いただいております。今回そのご要望に応えるため、また、昨今言われている「学士力」の養成など、今後の教育環境の変化に対応するための環境整備としてラーニング・コモンズを計画しました。「気軽に立ち寄れる図書館」、「一人で勉強をするだけでなく、グループで学習できる図書館」を目指して、今年度内の改修を予定し、現在、細部について検討を重ねているところです。

ここ数年、国内外の大学図書館ではラーニング・コモンズの整備が積極的に行われています。と言っても「ラーニング・コモンズ」って初めて聞いた、という方も多いのではないのでしょうか。まずは、ラーニング・コモンズとはどんなものなのか少し説明しておきたいと思います。アメリカの大学図書館などでは、1990年代後

半から、ネットワーク環境が整備されるのに合わせて、多様なソフトウェアが利用できるPCを館内に多数設置し、ネットワーク情報資源が入手でき、また、グループで利用できるインフォメーション・コモンズを整備してきました。そこでは、PC利用に関する技術的なサポートや、レポートや論文をまとめるためのライティング・サポートなどの人的サポートも受けられるようになっていきます。

ラーニング・コモンズは、このインフォメーション・コモンズの機能に追加して、学内のFD等の部局と連携し、より「学習」との結び付きを強めることで生まれた、新しい学習支援の図書館サービスと言えます。

図書館と言えば、これまでは「一人で静かに勉強するところ」というイメージが強かったと思います。でも、これからは、図書館の資料を活用し「みんなで学び合う場」としての図書館、いつでも気軽に使える図書館となることが求められているのです。

「学習の場」としての図書館が求められている

ラーニング・コモンズ

- 場所 → ・グループでの協働的な学習スペース（アクティブ・ラーニング）
・コミュニケーション・スペース（談話・交流スペース）
・リフレッシュ・スペース（アメニティ環境）
- PC等情報機器 → ICT（Information and Communication Technology）環境の整備
- 学習コンテンツ
→ 図書館資料、デジタルリソースをハイブリッドに利用可能
- 学習支援 → ・テクニカルサポート
・ライティングサポート etc.

FD やティーチング関係の学内機関との協働

中央図書館ラーニング・コモンズのポイントは次の3点です。

1. 「学び」を意識したグループ学習ができる、話せる空間を作る。

単にグループ学習ができる部屋を用意するということではなく、自分達で自由にスペースを作れ、グループ同士も学び合うことができるようにすることが大切だと考えています。

2. 長時間の図書館利用に必要なアメニティ環境（ライブラリー・カフェ）とコミュニケーションのための空間を作る。

カジュアルなスペースでのコミュニケーションも大切にしたいと考えています。休息の場というだけでなく、新しい出会い、交流の場となればと思います。

3. 必携PCの利用を前提としたICT環境を整備する。

これらを基に中央図書館に新たな学習空間を計画しました。全体の紹介は完成したあかつきに改めてさせていただくことにして、今回は、このラーニング・コモンズの中心となる「ブック・ラウンジ」と「コラボ・スタジオ」について少し紹介することにいたします。

(1) ブック・ラウンジ（エントランス）

中央図書館の入口部分（エントランス）に軽い飲食ができ、会話もできるコミュニケーション・スペースを用意します。この場所には、ライブラリー・カフェも併設して、「本を媒介とした知的出会いと対話が生まれる場」となることを期待しています。図書館での勉強に疲れて一休みするときだけでなく、ノートの整理をしたり、持参したPCでメールをチェックしたりと、気軽に立ち寄って利用してもらえます。また、友達との待ち合わせや語らいの場としても使っていただきたいと思います。

プロジェクタやスクリーンも設置して、サイエンス・カフェなど、〇〇〇・カフェと銘うってイベントを開催する予定ですので、是非、ご参加ください。また、こんなイベントをやってみたいという企画がありましたらご遠慮なく図書館までお申し込みください。

併設するライブラリー・カフェの名称は学生

の皆さんや教職員の皆さんから公募して決めたいと考えています。皆さんに愛されるライブラリー・カフェとなることを願っております。

(2) コラボ・スタジオ（3F 演習室）

中央図書館3階の演習室スペースを拡充して、図書館蔵書とPCを活用した協調的グループ学習スペースとして、「コラボ・スタジオ」を整備します。コラボ・スタジオは大きく2つのエリアに分かれ、オープンな空間で、自由度の高いグループ学習スペースの「オープン・スタジオ」と比較的少人数での利用を想定した「グループ・スタジオ」で構成されます。

A. オープン・スタジオ

40~50人程度のセミナーも可能なオープンスペース。敢えてオープンなスペースとすることで、多様なグループ活動を促進します。

B. グループ・スタジオ（2室）

8~10人程度の密なコミュニケーションを伴うグループ学習室

「オープン・スタジオ」、「グループ・スタジオ」どちらも、透明な仕切りで区切られており、それぞれのグループの様子が「見える」仕組みになっています。お互いの「学び」のスタイルを真似ながら自分たちの学びのスタイルを確認し作っていくことを意図しています。

「オープン・スタジオ」は普段は予約なしで、空いていれば自由に使っていただけます。机もイスも自分たちの好きなように移動して、さあミーティングを始めましょう！

その他、必携PCの利用環境を向上するためのコンセント整備や、AsiaSat等衛星放送の視聴環境の整備も予定しています。

中央図書館ラーニング・コモンズとライブラリー・カフェは、4月の新学期の開始に合わせてオープンします。ご期待ください。

(情報サービス課長 岡部幸祐)

教員おすすめ図書コーナー

金大生のための読書案内

—教員から学生へ(No.2)

中央図書館では、昨年度より各学類の教員がさまざまな分野から学生の皆さんにおすすめする図書を展示しています。

これまでに中垣良一先生（創薬科学類）、野村眞理先生（経済学類）、生田省悟先生（法学類）、加納重義先生（物質化学類）のおすすめ図書が展示され、多数の利用がありました。現在は山本博先生（医学類）のおすすめ図書が展示されています。貸出も可能ですので、どうぞご利用ください。展示は今後も学類ごとにリレー形式で行っていきます。次回はどの学類の先生のおすすめ図書が展示されるでしょうか。どうぞご期待ください。



Kennst du das Land 君よ知るやかの国 —10冊の「世界との窓」— 山本博教授（医薬保健学域—医学類）

平成22年1月4日～ 中央図書館で展示中

私は海外に出るのが遅いほうでした。1998年、日米英三国間共同研究の代表者としてイギリスのパートナーを return visit したのが最初です。ですから、学生の皆さんのような年頃から比較的最近に至るまで、異国や世界への関心と想像は、未知なるがゆえに、限りなくつよまったり、果てなくかけ廻ったりしたものでした。研究者は、海外に出なかったことを言いわけやハンディキャップにするわけには参りませんから、英語での読み書きや、国際会議、海外研究者との交流、留学生受入れはかなり真剣に行ったと思います。一方、外に出ていない分、自分が住む

日本という国とその文明文化が、世界の側からは一体どのように見えているのかも心にかかったことでした。これらの要素は、自己形成に、仕事や生活のし方に、そして読書に、否応なく影響してきたように思います。以下に挙げるのは、このような一医学徒にとって、世界との窓のような役割を果たしてくれたと思われる書物の例です。後輩の皆さんが本を選ぶときや、ものを考えるときの参考になれば幸いです。

書名	著者・編者	出版事項	所在・請求記号	備考
即興詩人	アンデルセン	筑摩書房, 1995.12	図開架 918.68:M854:10	
銃・病原菌・鉄:一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎(上)・(下)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社, 2000.10	図開架 204:D537:1-2 自然図2F 一般図書 204:D537:1-2	原書:Guns, germs, and steel : the fates of human societies / Jared Diamond, W.W. Norton, c2005(図開架 204:D537)
文明崩壊:滅亡と存続の命運を分けるもの(上)・(下)	ジャレド・ダイヤモンド	草思社, 2005.12	図開架 204:D537:1-2	原書:Collapse : how societies choose to fail or succeed / Jared Diamond, Penguin, 2006 (図開架 204:D537)
Molecular biology of the islets of Langerhans	edited by Hiroshi Okamoto	Cambridge University Press, 1990	図開架 493.12:M718	
山川健次郎伝:白虎隊士から帝大総長へ	星亮一	平凡社, 2003.10	図開架 913.6:H825	
遥かなるケンブリッジ:一数学者のイギリス	藤原正彦	新潮社, 1991.10	図開架 302.33:F961	
劇場街の科学者たち	松原一郎	朝日新聞社, 1992.4	図開架 049:M434	
名誉と順応:サムライ精神の歴史社会学	池上英子	NTT 出版, 2000.3	図書館 210.4:I26	原書:The taming of the samurai : honorific individualism and the making of modern Japan / Eiko Ikegami, Harvard University Press, c1995 (図開架 210.4:I26)
日本植物誌:シーボルト『フローラ・ヤポニカ』	シーボルト	八坂書房, 2000-2007.10	図開架 472.1:S571	
落日の地平へ	曠野信太郎	文藝書房, 2004.11	図書館 913.6:A662 医図書 913.6:A662 医保図書室 913.6:A662	

前回の展示



「本を読まなくなった教員から本を読まない学生諸君へ」 加納重義教授 (理工学域－物質化学類)

平成21年10月13日～ 平成21年12月25日

古今東西日々刻々と発刊され、星の数に勝る程ある本の中から、手にした一冊が誠に「^あ遇い難くして今^{いまあ}遇うことを得たり」となる可能性は奇跡と言わざるを得ない。そういう意味で、私はこうした読書案内とか新聞の書評をとっても有難く大切にしている。

承前の生田省悟教授から「次は理工の加納さんの番ネ。」と言われたのは、本年の玄冬、まさか自らが書評を書くことになるとは。つらつら顧みれば、昔はそれなりの読書青年であった筆者も、今では老眼鏡の助けを借りて専門書と講義の教科書の他は新聞を読むのが関の山。書

評はおろか、とても選書できるような器ではない筆者が絞り出すようにして選んだのは、自らが学生であった頃に読み、星宿三巡しても記憶に残った3冊に、比較的最近読んだ1冊を足しての僅か4冊の本である。当然ながら、始めて手にした時は正読したのであるが、たまたま読み返した折に私流の風変わりな読み方を思い付いたので、副題にご紹介する。読書は面倒なことと思いついでいる学生諸君がこの副題に興味を持って本に親しむ契機になれば、幸いである。

己丑夏五月上澣

書 名	著 者・編 者	出 版 事 項	所 在 ・ 請 求 記 号	副 題 (私流の読み方)
文字禍 (中島敦全集 第1巻)	中島敦	筑摩書房, 1948	図書館 918.6:N163:1-1 青空文庫収録(http://www.aozora.gr.jp/)	～本を読まない学生の言い訳になる本～
論語	孔子(著ではなくその弟子達による言行録)	岩波書店, 1963.7	図開架 I123.83:R773	～漢字パズルを解く～
漢字百話	白川静	中央公論新社, 2002.9	図開架 821.2:S558	～漢字の因数分解～
金沢；酒宴	吉田健一	講談社, 1990.11	図開架 913.6:Y65	～不眠症の学生のための良薬～

■附属図書館HP「教員おすすめ」コーナー(URL:<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/portal/osusume/>)で詳細をご覧ください。

(自然科学系図書館係 佐藤)

PubMed から本学で利用可能な電子ジャーナルへリンク！

この度、医学系の学術雑誌論文等を検索するための定番サイト PubMed の検索結果画面から本学で利用可能な電子ジャーナル (EJ) へのリンクが表示されるようになりました。その機能の概略をお知らせします。

■はじめに

この機能を利用するには、通常の PubMed とは違う「金沢大学専用入口」から検索する必要があります。見かけは同じですが、URL が異なります。今後は以下をブックマークされることをお勧めします。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?holding=ijpkzwalib>

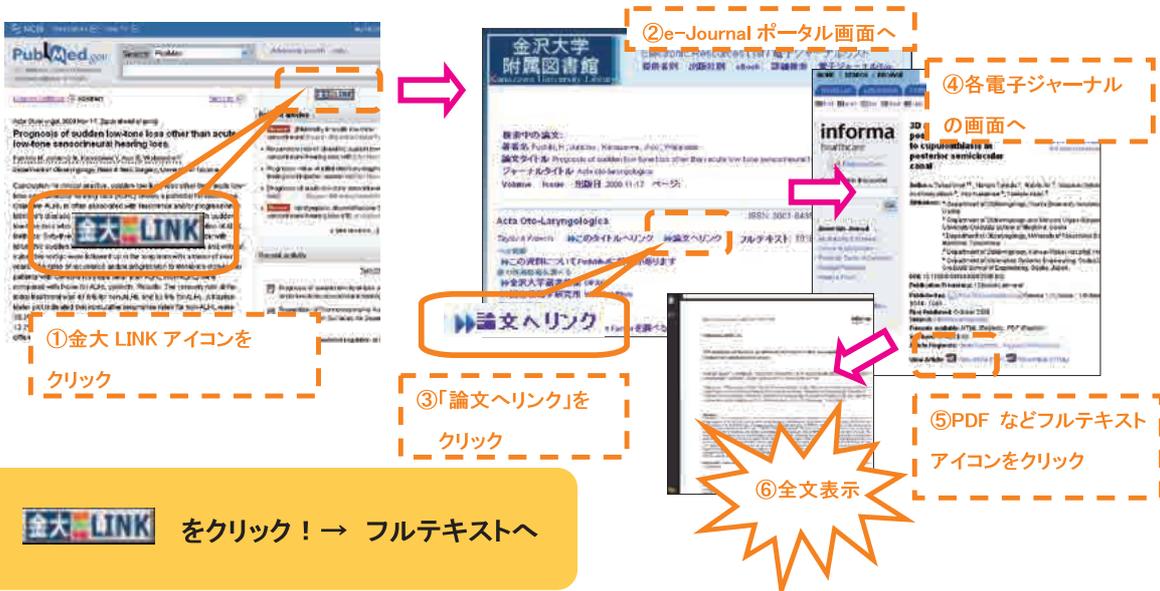
※ 最後の ijpkzwalib が金沢大学の識別名です。



■利用の流れ

PubMed で検索を行った結果、本学で利用可能な電子ジャーナルに掲載されている論文だった場合、画面上に次のとおり「金大 LINK」アイコンが表示されます。

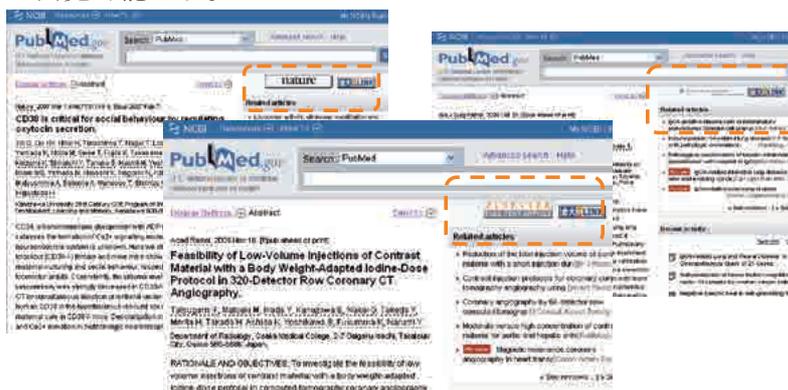
このアイコンをクリックすると、e-Journal ポータルの画面になります。ここで「論文へリンク」を押すと、論文のフルテキストの画面になります。



■アイコンがいくつも出ているときは....

1. 出版社のアイコン

主要な学術出版社等の EJ に掲載されている論文の場合、「金大 LINK」以外に各出版社のアイコンも表示されます。この中で本学が利用契約を結んでいる出版社の場合、どちらを押してもフルテキストが閲覧可能です。



次のような出版社・学会のアイコンならば全文閲覧可
ACS, Elsevier, Oxford UP, Springer, Wiley-Blackwell 等
※Nature 姉妹誌, LWW などは閲覧できるものとできないものがあります。

2. 無料サイトのアイコン

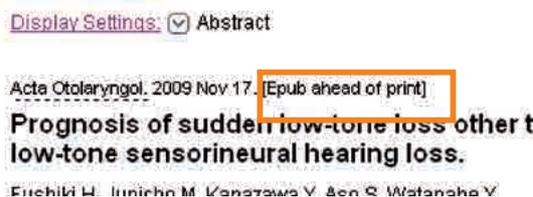
PubMedCentral など、無料公開されている EJ サイトのアイコンが表示されている場合もフルテキストの閲覧が可能です。

3. その他のアイコン

1, 2 以外の場合は、原則としてアイコンを押してもフルテキストを閲覧できません。

*

基本的に、検索後、「金大 LINK」があれば、それをクリックしてください。ただし、右図のように[Epub ahead of print]となっている、新着論文については、アイコンを押しても、うまくリンクできない場合があります。その場合は、出版社のアイコンの方をクリックしてみてください。



■アイコンが全く表示されていないときは...

掲載雑誌名で所蔵場所を探す必要があります。お手数ですが、正式雑誌名、巻、号、年、ページ等を確認した上、OPAC 等で検索を行なってください。

※ 閲覧可能に関わらず、「金大 LINK」リンクが表示されていない場合は、医学系分館係までご連絡ください。

■その他の機能

その他、「金大 LINK」をクリックすると、次のようなこともできます。

<p>Acta Oto-Laryngologica</p> <p>Taylor & Francis</p> <p>Web 巻章</p> <p>この資料について PubMed に情報が あります</p> <p>他の所蔵情報を調べる</p> <p>金沢大学蔵書検索 OPAC</p> <p>国立情報学研究所 WebCat Plus</p> <p>関連情報を調べる</p> <p>Google Scholar</p> <p>JCR (science ed.) で Impact Factor を調べる</p>	<p>このタイトルへリンク</p> <p>論文へリンク</p> <p>掲載誌の目次ページへ</p> <p>OPAC や Webcat で冊子の所蔵を検索できます。</p> <p>掲載誌のインパクトファクターを調べることができます。 ※インパクト未付与の場合は不可</p>
--	---

(医学系分館係 e-mail : igakusv@adm.kanazawa-u.ac.jp)



図書館トピックス

■館内の PC からプリンタ印刷ができます！

平成21年12月、図書館内にあるパソコンから印刷できるシステムを導入しました。(1枚10円)インターネット情報や論文、レポートの印刷ができます。ぜひご利用ください。

詳細：<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/portal/user/printout.html>

■貸出中資料のメール通知サービス開始

平成21年10月、アカンサスポータルから以下のメールを送信する通知サービスを始めました。

【返却期限日の事前通知】

返却期限日の3日前 *医学系分館資料のみ1日前

【督促通知】

返却期限日の翌日、その後返却されるまで1週間ごとに送信

■「北陸銀行文庫」に新たに111冊の寄贈図書が加わりました！

中央図書館で一番多く読まれている「北陸銀行文庫」ですが、平成21年10月27日に北陸銀行から新たに111冊の寄贈があり、合計272冊になりました。学生のキャリア・アップや就職活動の参考になる本が数多くありますので、ご利用ください。

■「とぼら選書コーナー」設置しました！

平成21年9月から中央図書館2階閲覧ホールの「新着図書コーナー」に、図書館学生ボランティア「とぼら」のメンバーが選んだ本を置いています。貸出も可能ですのでご利用ください。



▼就職支援図書展示「就職にカツ！」

今年も就職活動の時期に合わせて、平成21年11月25日(水)から12月16日(水)まで、中央図書館2階閲覧ホールにて、新着の就職支援資料166冊を展示しました。就職支援室からの就活関係パンフレット等も並べ共に好評でした。



▼特別資料展示(中央図書館3階特別閲覧室)

1) 「時をかける絵はがき:100年前は…」

- ・平成21年8月6日(木)～8月7日(金)
- ・平成21年10月1日(木)～10月9日(金)

2) 「古地図で金沢散歩」

- ・平成21年10月31日(土)、11月2日(月)～11月13日(金)

◆活動記録(2009.7-2009.12)◆

☆自然科学系図書館、医学系分館

- ・検索のコツと EndNote Web 講習会 (10月23日)

★会議等

- ・図書館委員会開催
(第2回 11月27日, 第3回 12月8日)
- ・学生用図書選定部会開催
(中央図書館: 7月22日, 10月27日)
(自然科学系図書館: 7月7日, 10月20日)
- ・学術情報基盤整備WG開催
(第1回 9月29日, 第2回 11月16日)
- ・医学系分館将来構想検討WG開催
(第1回 7月31日, 第2回 10月28日)